

インドラーニーとチャンダラ シンガポール出身の元ヒンズー教徒（下）

説明： 熟考の末、インドラーニーは夫と共にイスラームに改宗します。

よりムニーラ アル＝イドロス（インタビュアー）

掲載日時 02 Jun 2014 - 編集日時 02 Jun 2014

カテゴリ： [記事](#) > [新改宗者ムスリムの逸話](#) > [女性](#)

カテゴリ： [記事](#) > [新改宗者ムスリムの逸話](#) > [男性](#)

彼女はヒンズー教の神々から警告を受け、脅迫される夢も見ましたが、どちらかといえればイスラームと敬虔なムスリムたちの夢の方をより多く見ました。彼女はヒンズー教の神々に祈りを捧げていましたが、夢について考えを巡らせていました。彼女が第三子を妊娠していたとき、再び奇妙な夢を見ました。彼女は寝室の開かれた窓から声を聞いたのです。その声はこう言いました。「私は神の使徒、ムハンマドである。私の道に従いなさい。そうすればすべての悪は遠のいていくであろう。そのことをもっと知りたいのなら、あなたの夫に尋ねなさい。」

この夢の後に彼女を目を覚ましましたが、再び眠りに落ちました。そして彼女は別の夢を見ました。その夢の中で、彼女は夫に最初の夢について教えていました。彼女が彼に「道」について尋ねると、彼は窓の外に目をやるよう言いました。するとそこにはアラブ人のような格好をしたユースフ イスラーム¹が、彼と同じような格好をした人々の前でイスラームについて語っていました。インドラーニーはユースフ イスラームについて聞いたことはありましたが、彼を実際に見たことはありませんでした。しかし夢の中ではそれが彼であると確信していました。

これらの夢は、インドラーニーの信仰に大きな影響を与えました。彼女はイスラームに大きく惹き付けられ、神の使徒ムハンマド（神の慈悲と祝福あれ）の道に従いたいと思いました。彼女はイスラームに改宗したかったと言いましたが、3番目の子を妊娠していたために、夢のなかでヒンズー教の神々から受けた脅迫のことを思い出し、その子に何かが起こることを怖れて改宗を思いとどまっていた。出産後、インドラーニーは改宗の準備が出来ていることを夫に告げました。

2人はイスラームへの改宗を登録することの出来る、シンガポールのムスリム改宗者協会、ダール アル＝アルカムを紹介されました。チャンダラは、そこが（別の組織と）つながりをもっていると感じ、当初は拒否していましたが、2人は代わりにジャムイーヤ（シンガポール イスラーム神学学会）へ行き、それぞれの名をムハンマド ラフィーク、ニシャーニーとして登録しました。

2人が改宗を公言すると、多くの問題に直面しなければなりませんでした。特に、インドラーニーがヒジャブを着け始めるとそれは顕著になりました。2人を寵愛していた両親、兄妹、親戚、友人たちは、2人を責めるようになりました。インドラーニーがヒンズー教へと導いた友人たちは、今度はイスラームへと改宗させられることを恐れ、彼女と関わりを持つことを拒みました。特に彼女らは、インドラーニーが彼女らよりもムスリムたちを嫌っていたことを知っていたため、驚きを隠せませんでした。インドラーニーの両親は、彼女の夫

に「複数の妻を娶る隠れた願望があるに違いない」と言って彼女に警告しました。

両親によつてのけ者にされてしまったインドラーニーと彼女の夫は、以前受けていた愛情を恋しく思いました。インドラーニーは、神が彼女を愛するのであれば、家族を失うという犠牲は何でもないので何度も自分に言い聞かせました。彼女は、神よりも自分自身を愛する者はいないことを確信していました。

ヒンズー教学者や導師たちは、チャンダラをヒンズー教に引き戻そうと試みましたが、彼はそれを丁重に断りました。すると、彼らは彼との関係を断絶しました。インドラーニーの家族は、2人の子供たちであるニーシャ、ナフィーサ、ナターシャがムスリムの名前を持っていることを認めず、成長の暁にはヒンズー教に戻ってこさせることを誓いました。現在マドラサ（イスラーム学校）で学ぶ子供たちは、自分たちの宗教にとても満足しています。チャンダラは彼女たちがまだ幼いにも関わらず、それに慣れ親しむという目的でヒジャーブの着用を勧めています。子供たちはヒジャーブを愛するあまり、それを外すことを拒否するくらいです。

インドラーニーとチャンダラは、両親から拒絶されたのにも関わらず、関係を持続させ、好転させる努力を惜しみません。インドラーニーとチャンダラの母親は現在、親孝行な子を持っていることについては喜んでいますが、アルハムドゥリッラー（すべての称賛は神にこそあれ）。

脚注：

[1](#) 訳者注：著名なイスラーム宗教歌手。

この記事のウェブアドレス：

<http://www.islamreligion.com/jp/articles/113>

Copyright © 2006-2013 www.IslamReligion.com. All rights reserved.